

# 上下水道局

## 重点目標

- 1 経営効率化の推進
- 2 安全でおいしい水の安定供給と真田水道事業の推進
- 3 上水道施設の計画的な維持・更新
- 4 下水道施設の計画的な維持・更新
- 5 技術継承に関する取り組み

重点目標	経営効率化の推進			部局名	上下水道局	優先順位	1位
総合計画における位置付け	第4編 生活環境 第1章 快適な生活環境を実現するために 第2節 安全・安心・清潔に暮らせる生活環境を実現する			2014市長マニフェスト における位置付け		- 1 -	
現況・課題	給水人口の減少や大口需要の低迷及び節水機器の普及等による料金収入の減少、また上・下水道施設の更新や修繕による投資額の増加が見込まれるなか、収支バランスのとれた健全な事業経営を行っていく必要があります。そのため、経営方針に基づき、毎年今後10年間の財源計画とそれに基づく事業計画についてローリングを行い、収支バランスのとれた計画的な事業展開に取り組み、経営の効率化を推進していくことが求められています。業務改善の一環としての上下水道料金徴収・窓口業務の包括的民間委託化は、10月の運用開始に向け準備を進めます。また、浄水場施設維持管理業務の民間委託化については、局全体の中で組織再編成を考慮して段階的に進める必要があります。						
目的・効果	財源計画において適切な目標を設定するとともに事業計画において事業の選択と集中を行い、これらについて毎年ローリングを行う中で、営業収益に見合う支出財政規模を定め持続可能な企業運営と経営の効率化を推進します。						
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
アセットマネジメント及び長寿命化計画を踏まえた今後10年の事業計画の様式を作成	3月	各種計画を整合した事業計画の様式を作成	策定中の上水道施設アセットマネジメント及び長寿命化計画とリンクした事業計画調書の様式を検討中		<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に新たな事業計画調書の様式を策定</li> <li>・12月に財政推計実施</li> <li>・1月に事業計画策定</li> </ul>		
民間委託の実施 上下水道料金徴収等業務の民間委託化	10月	9月末までに業務の引き継ぎを適正に完了させ、10月から民間による業務を開始する	10月からの民間委託本稼働に向け、業務の引継ぎを完了した（100%）		10月から民間による業務を開始した		
収納率の向上 水道料金・下水道使用料(現年度分)	3月	収納率99%	98.14%（9月末現在）		99.08%		
県企業局主催の水道事業運営研究会への参加	4月～3月	今後の県水及び3市1町の水道事業のあり方、方向性を研究する。	5月と8月に開催し、今後「水質検査の共同化」、「料金徴収の共同運営」、「施設・給水エリアの統廃合」について各分科会で検討することとなった		5、8、3月に研究会を開催し、また11月に「水質検査の共同化」について分科会を開催したが、次年度より検討内容を見直し広域連携について更なる推進を検討することとなった。		
市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			取組による効果・残された課題				
民間活力の導入による市民満足度の向上			民間委託となった上下水道料金徴収等業務が適正に遂行されるよう、今後の管理・監督が課題となる。				

重点目標	安全でおいしい水の安定供給と真田水道事業の推進			部局名	上下水道局	優先順位	2位
総合計画における 位置付け	第4編 生活環境 第1章 快適な生活環境を実現するために 第2節 安全・安心・清潔に暮らせる生活環境を実現する			2014市長マニフェスト における位置付け		- 2 -	
現況・課題	上水道事業は、上水道3、簡易水道4の合計7事業で運営されていますが、これらの水源は河川の表流水、ダム水、地下水や湧水などで28箇所に及んでいます。この内、湧水水源の中には、降雨時における水質が不安定となるものがありますが、一方で、真田地区には水質が安定し、水量も豊富な湧水があることから、真田地域簡易水道統合事業により、この湧水の有効活用を図ります。						
目的・効果	湧水水源の改修・改良を行うとともに、水源水質検査を充実することにより、安全な水の供給を維持していきます。安定した湧水の活用を行うことにより、現在よりも効率的に安全でおいしい水を安定供給することができるようになります。						
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
水源水質検査の強化体制持続 (1)水源の水質検査 (2)水質等自動監視設備設置	(1) 4月～3月 (2) 3月	(1)クリプトスポリジウム 11箇所 34検体 指標菌 22箇所 122検体 (2)上水道 伝送装置 1箇所 水位計 1箇所 簡易水道 伝送装置 4箇所 水位計 4箇所	(1)クリプトスポリジウム 11箇所 19検体 指標菌 22箇所 66検体 実施済 実施済 (2)上水道 伝送装置（穴水ポンプ場） 水位計（穴水ポンプ場） 発注済 発注済 簡易水道 伝送装置（上本入第3,4、中央第2、余里第2） 水位計（上本入第3,4、中央第2、余里第2） 発注済 発注済	(1)クリプトスポリジウム 11箇所 34検体 指標菌 22箇所 122検体 検査完了 検査完了 (2)上水道 伝送装置（穴水ポンプ場） 水位計（穴水ポンプ場） 設置完了 設置完了 簡易水道 伝送装置（上本入第3,4、中央第2、余里第2）設置完了 水位計（上本入第3,4、中央第2、余里第2）設置完了			
有収率の向上 漏水調査の実施	3月	85%	85.0%（9月末）（参考：H26 9月末83.5%）		86.0%（参考：H26年度 84.1%）		
真田地域簡易水道統合事業の推進 つちや・滝の入水源を活用した新たな導・配水管の整備	4月～3月	L=1.6km	L = 1.9 km 発注済		L = 3.0 km 発注済（内、管路布設済 L = 1.5 km） （繰越：H28.8月末完了予定）		
市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			取組による効果・残された課題				
特記事項							

重点目標	上水道施設の計画的な維持・更新			部局名	上下水道局	優先順位	3位
総合計画における 位置付け	第4編 生活環境 第1章 快適な生活環境を実現するために 第2節 安全・安心・清潔に暮らせる生活環境を実現する			2014市長マニフェスト における位置付け		- 2 -	
現況・課題	上水道は、ガス、電気と並び市民の安全で快適な生活環境の確保のために必要不可欠なライフラインであり、一日たりとも休むことのできない重要な施設です。管路施設は、現在も創設当時のものが残存していることから、計画的な更新が必要であり、東日本大震災などの未曾有の大規模地震が発生していることから、管路施設の耐震化を進める必要があります。						
目的・効果	上水道施設の計画的更新や耐震化により、大規模災害はもちろんのこと、日常の管破裂などの減少が期待できます。計画的な改築更新を行うことにより、投資額の平準化が図られ、安定した事業運営が期待できます。						
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
上水道管路耐震化 管路の耐震化	4月～3月	L = 6.0 km (内、舗装復旧工事 L = 1.0 km)  (真田地域簡易水道統合事業を除く)	L = 3.5 km 発注済 (真田地域簡易水道統合事業を除く)	L = 5.4 km 完了(内、舗装復旧工事 L = 0.8 km) L = 1.0 km 発注済(繰越：H28.6月末完了予定)  (真田地域簡易水道統合事業を除く)			
上水道施設アセットマネジメント策定 水道施設の再構築(統廃合や規模の適正化を考慮した更新需要の算定)	7月～3月	策定完了	11月発注予定	12月発注済(繰越：H28.6月末完了予定) (管路口径の適正化を考慮した更新需要の算定)			
浄水場施設の設備更新 (1)染屋浄水場の設備更新 (2)腰越浄水場の設備更新	(1)3月 (2)3月	(1)親局テレメータ シーケンサ更新 (2)非常用発電機更新	(1)親局テレメータ シーケンサ更新 11月 発注予定  (2)非常用発電機更新 11月発注予定	(1)染屋浄水場の親局テレメータ シーケンサ更新 3月 更新完了  (2)腰越浄水場の非常用発電機更新 3月 更新完了			
市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			取組による効果・残された課題				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道管の耐震化を推進し、防災に努めます。</li> <li>水道施設を計画的に更新し、この資産を健全な状態で次世代に引き継いでいくことは現世代の責務です。そのため、財源計画に基づいたアセットマネジメントを策定します。</li> </ul> (アセットマネジメント(資産管理)：長期的な視点に立ち水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営していくことを組織的に実践する活動です。)						

平成27年度 重点目標管理シート

重点目標	下水道施設の計画的な維持・更新			部局名	上下水道局	優先順位	4位
総合計画における 位置付け	第4編 生活環境 第1章 快適な生活環境を実現するために 第2節 安全・安心・清潔に暮らせる生活環境を実現する			2014市長マニフェスト における位置付け		- 2 -	
現況・課題	下水道管渠の整備はほぼ完了しましたが、快適な水環境を創造するためには下水道未整備箇所の早期の解消と、管渠整備済み箇所への下水道接続の促進が必要です。また、人口の減少や少子高齢化の進行、省エネルギー化など、社会状況の変化に伴い、市民のライフスタイルも大きく変化し、下水の流入量も微増に留まっています。下水道施設の維持管理の効率化を更に図る上で、公共下水道施設への接続が有利と思われる農業集落排水施設については、公共下水道との統合についても検討が必要です。 下水道が建設から維持管理の時代に移行していく中、施設の老朽化が課題となっており、老朽化が進む施設の計画的な更新を図るため、「下水道施設長寿命化計画」を策定し、事業を実施しています。安定した下水処理を維持するため、計画に基づいて施設の更新を実施していく必要があります。						
目的・効果	良好な生活環境と水環境を形成するため、下水道未整備箇所の管渠工事の実施と下水道の接続を促し水洗化を促進します。社会情勢の変化に対応した効率的な施設の維持管理を図るため、農業集落排水施設と公共下水道施設の統合計画を進めます。安定した下水処理を確保するため、下水道施設長寿命化計画による施設の更新を図ります。						
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
長寿命化事業の実施 上田、南部、丸子、管平処理場の設備更新	4月～3月	4処理場の更新工事の実施	8月に4処理場の更新工事を発注した	4処理場の更新工事を発注し着手（繰越：H28.9月末完了予定）			
下水道未整備箇所の解消 公共下水道計画区域内の未整備箇所の解消	4月～3月	未整備箇所の解消 上田地域：7か所解消 丸子地域：3か所解消	未整備箇所の解消 上田地域：2箇所を解消し、10月に3箇所を発注予定 丸子地域：5箇所を発注した	未整備箇所の解消 上田地域：7箇所を解消 丸子地域：6箇所を解消			
農業集落排水施設の機能強化事業の実施 処理場の機能診断・機能強化事業の実施	4月～3月	仁古田処理場の機能強化工事の実施 岡処理場の機能診断の実施	8月に仁古田処理場の機能強化工事を発注した 岡処理場機能診断を年内に発注予定	仁古田処理場の機能強化工事を完了した 岡・小井田処理場機能診断を完了した			
農業集落排水の公共下水道への統合事業推進 統合に必要な既設管渠機能の課題調査の実施	4月～3月	統合事業実施に伴う管渠の機能調査の実施	接続ルートの更に詳細な委託設計を10月に発注予定	管渠の機能調査として接続ルートの更に詳細な委託設計を完了した			
水洗化の促進 公共下水道地域、農業集落排水事業地域の戸別訪問等による水洗化促進の実施	4月～3月	新規接続戸数650戸を目標とする	新規接続戸数539戸（9月末現在）	新規接続戸数993戸と目標達成できた。			
特記事項	市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・清潔で快適に生活するための社会インフラ整備として、下水道管渠未整備箇所の解消を図ります。 ・下水道未普及地域の解消が図れ生活環境が向上するとともに河川などの水質改善が図れます。 ・下水道施設長寿命化計画に基づき、施設等の更新を行い経営の安定化と生活環境の維持増進に努めます。		取組による効果・残された課題 ・水洗化促進について、丸子、真田、武石地域での戸別訪問催告の実施及び適用条件の緩和された利子補給制度、低宅地ポンプ設置費補助の水洗化促進への活用が今後の課題となる。				

重点目標	技術継承に関する取り組み			部局名	上下水道局	優先順位	5位
総合計画における 位置付け	第4編 生活環境 第1章 快適な生活環境を実現するために 第2節 安全・安心・清潔に暮らせる生活環境を実現する			2014市長マニフェスト における位置付け		- 1 -	
現況・課題	上下水道建設から維持に携わってきた熟練技術者の退職や職員異動等により、技術力の確保が難しくなっており、上下水道技術者の育成及び技術の継承が課題となっています。今後、老朽化した施設の計画的な更新や災害時の対応など新たな課題もあることから、技術力継承に向けた計画的な取り組みの実施の必要があります。						
目的・効果	継続的な上下水道技術を確保するため、職員に対して資格取得の奨励や外部研修などの受講を促進し人材育成を図ります。						
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
	技術継承のための人材育成の実施 継続的な資格取得の奨励や外部研修の受講促進による人材育成の実施	4月～3月	外部研修受講 ・水道技術耐震技術研修会 1人 ・下水道管渠関連 2人	外部研修受講 ・水道技術研修会に12月、2名申込み済 ・下水道事業団研修に8月に1名が参加した 10月に1名の参加を予定	外部研修・資格取得研修 ・水道技術関係 日本水道協会、厚生労働省等主催による研修会 延べ15人参加 作業資格取得講習会等 延べ15人参加 ・下水道技術関係 日本下水道事業団、日本下水道協会等主催による研修会 延べ6人参加		
特記事項	市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 快適な水環境を守るため、上下水道技術を継承する。			取組による効果・残された課題			